

ログ出力

1. ログの概要	2
1-1. ランタイム製品 (FormCast / FormCollect / FormPrint / FormPrintStage / FormPrintStageWeb)	2
1-1-1. 実行ログ	2
1-2. FormMagicfolder	3
1-2-1. サービス移動ログ	3
1-2-2. 監視フォルダログ	3
1-3. FormRemoteObject	4
1-3-1. サービス移動ログ	4
1-3-2. アクセスログ	5
2. ログの設定	6
2-1. ログの出力	6
2-1-1. 共通仕様	6
2-1-2. ランタイム製品 (FormCast/FormCollect/FormPrint/FormPrintstage/FormPrintStageWeb)	6
2-1-3. オプション製品 (FormMagicfolder/FormRemoteObject)	6
2-2. ログのローテーション	6
2-2-1. 共通仕様	6
2-2-1. ランタイム製品 (FormCast/FormCollect/FormPrint/FormPrintstage/FormPrintStageWeb)	7
2-2-2. オプション製品 (FormMagicfolder/FormRemoteObject)	7
2-3. ログ設定ダイアログ	7
2-3-1. メイン設定ダイアログ	8
2-3-2. 詳細設定ダイアログ	9
2-4. ジョブ実行時のログ出力設定	11
2-4-1. ジョブ ID	11
2-4-2. ログファイル名	11
3. 実行ログの確認	12
3-1. ログビューア概要	12
3-2. 起動方法	12
3-3. 画面説明	12
3-3-1. メイン画面	12
3-3-2. 表示件数設定画面	14
3-3-3. 表示項目設定画面	15
3-3-4. アーカイブファイル選択画面	16
3-3-5. ログプロパティ画面	17
3-4. ログファイルの追加	18

1. ログの概要

Create!Form 製品では製品ごとに出力できるログの種類が異なります。
個々の製品のログの種類と出力内容は次のとおりです。

1-1. ランタイム製品

(FormCast / FormCollect / FormPrint / FormPrintStage / FormPrintStageWeb)

1-1-1. 実行ログ

実行ログはジョブ実行時に出力されるログで1ジョブで2行出力されます。1行目が実行開始ログで2行目が実行終了ログです。実行ログには実行結果を示すメッセージ番号が入ります。開始 / 終了の出力形式は同様で、次の内容で出力されます。

```
2013/01/01, 00:00:00.000, 12345, Information:CS-00-01-0102, -Dsample -ssample.sty  
-osample.pdf sample.txt
```

[発生年月日], [時刻], [ジョブ ID], [メッセージレベル] : [メッセージ番号], [実行オプション文字列]

[発生年月日] [時刻]

ログを出力した年月日および時刻を出力します。

[ジョブ ID]

実行ジョブを一意に識別する ID です。

[メッセージレベル]

Information/Warning/Error の3つがあります。

Information : 正常処理であることを通知します。

Warning : 処理の続行可能なエラーを通知します。

Error : 処理を中断せざるを得ないエラーを通知します。

[メッセージ番号]

メッセージに割り当てられた番号です。

メッセージ番号の下4桁は、開始の場合は“0101”に、正常終了の場合は“0102”になります。エラーが発生した場合のメッセージ番号の下4桁はエラー番号になります。エラー番号の詳細についてはマニュアル「インストール・エラーコード一覧・制限事項 2. エラーコード」をご覧ください。

[実行オプション文字列]

ランタイム実行時のオプション文字列です。個々の実行オプションについては Design マネージャのメニュー [ヘルプ] - [オンラインマニュアル] から「5. 出力ランタイムの呼び出し」 - 「5.2 実行オプション」 - 「ランタイムを実行するときに指定する実行オプション」をご覧ください。

1-2. FormMagicfolder

1-2-1. サービス稼働ログ

サービス稼働ログはサービスの開始 / 停止時および監視フォルダの監視開始 / 停止時に次のような形式で出力されます。

```
2013/01/01, 00:00:00, INFO, 01234567890, 0, 0, startup - home=[C:¥CreateV10]
[発生年月日], [時刻], [メッセージレベル], [セッション ID], [固定値], [固定値], [メッセージ文字列]
```

[発生年月日][時刻]

ログを出力した年月日および時刻を出力します。

[メッセージレベル]

INFO/WARN/ERROR の 3 つがあります。ERROR レベルのログが出力される場合は、サービス稼働エラーログ（※）に詳細が出力されます。

※エラー発生時にはサービス稼働エラーログがログ出力先ディレクトリに出力されます。ファイル名は「mf.exception.dump.log」で、出力しないように設定することはできません。

[セッション ID]

サービスの開始から停止までの間で一つの ID が使用されます。

[固定値]

常に "0" を出力します。

[メッセージ文字列]

サービスにおけるメッセージが出力されます。

上記ログサンプルのメッセージ文字列 "startup - home=[C:¥CreateV10]" は "[C:¥CreateV10" をホームディレクトリとしてサービス起動を開始します" というメッセージです。

1-2-2. 監視フォルダログ

監視フォルダログは監視フォルダに投入されたファイルの処理時に次のような形式で出力されます。また、監視フォルダ設定の読み込み時（サービス開始時）および監視フォルダの監視開始・停止時も同様に出力されます。

```
2013/01/01, 00:00:00, INFO, 01234567890, 00001, 01234567890_0_0, executed: sample.txt
[発生年月日], [時刻], [メッセージレベル], [セッション ID], [監視フォルダ ID], [ランタイム実行ジョブ ID], [メッセージ文字列]
```

[発生年月日][時刻]

ログを出力した年月日および時刻を出力します。

[メッセージレベル]

サービス稼働ログのメッセージレベルと同様です。ただし、ERROR レベルのログが出力される場合は、監視フォルダエラーログ（※）に詳細が出力されます。

※エラー発生時には監視フォルダエラーログがログ出力先ディレクトリに出力されます。ファイル名は「mf.folder_(監視フォルダ ID).exception.log」で、出力ないように設定することはできません。

[セッション ID]

サービス稼働ログで出力される ID と同一です。

[監視フォルダ ID]

監視フォルダに一意につけられた ID です。

どの監視フォルダにおける処理によって出力されたログかを確認することができます。

※監視フォルダ ID は、FormMagicfolder 設定ツールから参照できます。

設定ツールを起動し、監視フォルダ一覧から ID を確認したい監視フォルダを選択してダブルクリックしてください。起動した監視フォルダの設定画面に [ID] として表示されている項目が監視フォルダ ID です。

[ランタイム実行ジョブ ID]

1 ファイルを処理するにあたって 1 つ割り振られる ID です。

この ID はランタイムの実行ログにもジョブ ID として出力されます。

[メッセージ文字列]

監視におけるメッセージが出力されます。

上記ログサンプルのメッセージ文字列 "executed: sample.txt" は「sample.txt に対する処理が完了しました」というメッセージです。

1-3. FormRemoteObject

1-3-1. サービス稼働ログ

サービス稼働ログはサービスの開始 / 停止時に次のような形式で出力されます。

```
2013/01/01, 00:00:00, INFO, 01234567890, 0, 0, startup - home=[C:\CreateV10]
```

[発生年月日], [時刻], [メッセージレベル], [セッション ID], [固定値], [固定値], [メッセージ文字列]

[発生年月日][時刻]

ログを出力した年月日および時刻を出力します。

[メッセージレベル]

INFO/WARN/ERROR の 3 つがあります。ERROR レベルのログが出力される場合は、サービス稼働エラーログ (※) に詳細が出力されます。

※エラー発生時にはサービス稼働エラーログがログ出力先ディレクトリに出力されます。ファイル名は「ro.exception.dump.log」で、出力ないように設定することはできません

[セッション ID]

サービスの開始から停止までの間で一つの ID が使用されます。

[固定値]

常に "0" を出力します。

[メッセージ文字列]

サービスにおけるメッセージが出力されます。

上記ログサンプルのメッセージ文字列 “startup - home=[C:¥CreateV10]” は “C:¥CreateV10” をホームディレクトリとしてサービス起動を開始します” というメッセージです。

1-3-2. アクセスログ

アクセスログは FormRemoteObject Client との通信時に次のような内容で出力されます。

```
2013/01/01, 00:00:00, INFO, 01234567890, localhost/127.0.0.1, 01234567890_0_0, GET  
, transaction, sample, request begin
```

[発生年月日], [時刻], [メッセージレベル], [セッション ID], [ホスト名/IPアドレス], [ランタイム実行ジョブ ID], [HTTPメソッド名], [リソース名], [リソース ID], [メッセージ文字列]

[発生年月日][時刻]

ログを出力した年月日および時刻を出力します。

[メッセージレベル]

サービス稼働ログのメッセージレベルと同様です。

[セッション ID]

サービスの開始から停止までの間で一つの ID が使用されます。

[ホスト名/IPアドレス]

RemoteObject Client のホスト名/IPアドレスが出力されます。ホスト名が解決されない場合はホスト名部分が出力されず “/127.0.0.1” のようになります。

[ランタイム実行ジョブ ID]

1つのリクエストに1つ割り振られる ID です。この ID はランタイムの実行ログにジョブ ID として出力されます。

[HTTPメソッド]、[リソース名]、[リソース ID]

RemoteObject Client からのリクエスト内容です。

リクエストの種類ごとに、HTTPメソッドとリソース名の組み合わせが異なります。

例えば、サーバの開始/停止を確認するリクエストの場合は「GET, service, hello」、ジョブを取得するリクエストの場合は「GET, job, (ジョブ ID)」です。

[メッセージ文字列]

クライアントとの通信におけるメッセージを出力します。

上記ログサンプルのメッセージ文字列 “request begin” は “クライアントからのリクエスト処理を開始します” というメッセージです。

2. ログの設定

2-1. ログの出力

2-1-1. 共通仕様

製品ごとに各種情報をログ出力先にログファイルとして出力することができます。各製品のログの内容については「1. ログの概要」をご覧ください。

ログがファイルに出力できない場合はランタイム製品とオプション製品とで動作が異なります。次項以降をご覧ください。

2-1-2. ランタイム製品

(FormCast/FormCollect/FormPrint/FormPrintstage/FormPrintStageWeb)

ログファイルへの書き込み権限がない、もしくはログファイルにロックがかかっているなどで、ログファイルに対して書き込みが行えないことがあります。その場合は、LogWriteError_[ジョブID].logをログ出力先ディレクトリに出力します。ログ出力先ディレクトリに書き込めないときは、LogWriteError_[ジョブID].logをランタイム製品導入ディレクトリ直下に出力しません。

2-1-3. オプション製品 (FormMagicfolder/FormRemoteObject)

ログファイルへの書き込み権限がない、もしくはログファイルにロックがかかっているなどで、ログファイルに対して書き込みが行えないことがあります。その場合は、エラーログ(※)をログ出力先ディレクトリに出力します。

※ FormMagicfolder : mf.exception.dump.log
FormRemoteObject : ro.exception.dump.log

ログ出力先ディレクトリに書き込めないときは、ログを出力しません。

2-2. ログのローテーション

2-2-1. 共通仕様

ログ設定ダイアログにおいて設定したローテーション実施規則に該当する場合にログローテーションを行い、ローテーションしたログの出力先ディレクトリにログファイルを退避します。ログ設定ダイアログについては「2-3 ログ設定ダイアログ」をご覧ください。

ログローテーションの実施タイミングは、ローテーション実施規則での設定により異なります。ローテーション実施規則においてログファイルサイズ指定が行われている場合には、ログファイルのサイズが指定したサイズを超えた場合にローテーションします。最終更新年月日との差分指定が行われている場合には、最終年月日と現在日時との間で指定した年月日単位の値が異なる場合にローテーションします。

ローテーションによって退避したログファイルと同名のファイルがローテーションしたログの出力先に既に存在する場合は、新たに退避するログのファイル名は重複しないように変更しません。

ローテーションによって退避したログファイルが保管世代数として指定した数を超えた場合には、自動的にファイルを削除します。

<< 注意 >>

ファイルが誤って削除されることを避けるためにも、退避ログの出力先には退避ログ以外のファイルを置かないようにして下さい。

ローテーションによって退避したログファイルがローテーションしたログの出力先に出力できないことがあります。その場合の退避したログファイルの出力先はランタイム製品とオプション製品で異なります。次項以降をご覧ください。

※以下、ログローテーションによって作成されるファイルを退避ログとします。

2-2-1. ランタイム製品

(FormCast/FormCollect/FormPrint/FormPrintstage/FormPrintStageWeb)

退避ログの出力先ディレクトリが存在しないため、退避ログの出力が行えないことがあります。その場合は、退避ログの出力先ディレクトリを新たに作成して退避ログを出力します。ディレクトリの作成自体が行えない場合には、ログ出力先ディレクトリに退避ログを出力します。

2-2-2. オプション製品 (FormMagicfolder/FormRemoteObject)

退避ログの出力先ディレクトリが存在しないもしくは他の要因のため、退避ログの出力が行えないことがあります。その場合は、退避ログの出力先ディレクトリを作成せず、ログ出力先ディレクトリに退避ログを出力します。

2-3. ログ設定ダイアログ

全ての Create!Form 製品で共通のログ設定機能です。

FormDesign マネージャ、またはランタイムマネージャを起動し、ツールバーの [ログ設定] をクリックすることで起動します。

※以下、ログローテーションによって作成されるファイルを退避ログファイルとします。

<< 注意 >>

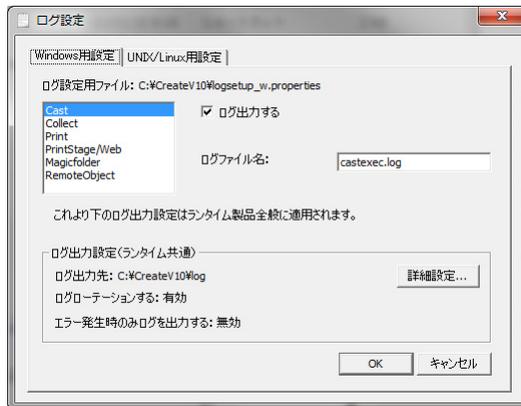
FormMagicfolder の各監視フォルダのログは本ダイアログでは設定できません。

Magicfolder 設定の [監視フォルダ設定] ダイアログで設定して下さい。

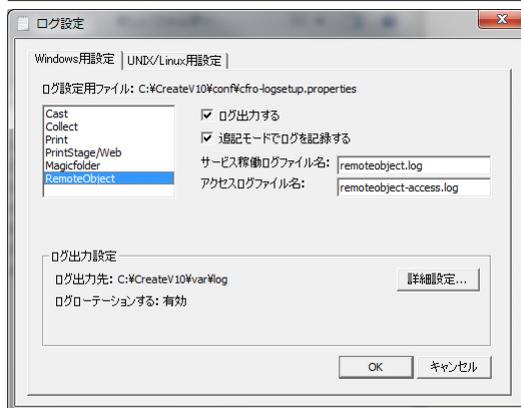
設定方法につきましては Design マネージャのメニュー [ヘルプ]-[オンラインマニュアル] から「7. FormMagicfolder」の「5. 監視フォルダの登録と解除」をご覧ください。

2-3-1. メイン設定ダイアログ

図：メイン設定ダイアログ（ランタイム製品選択時）



図：メイン設定ダイアログ（FormRemoteObject 選択時）



※ FormMagicfolder 選択時のダイアログ画面は、FormRemoteObject 選択時とほぼ同じであるため、割愛します。違いは、FormMagicfolder 選択時は [アクセスログ出力先] の項目が表示されないことです。

[Windows 用設定] タブ

本ダイアログを起動した端末にインストールされた Create!Form 製品のログ設定を行います。

[UNIX/Linux 用設定] タブ

本ダイアログを起動した端末以外の端末（UNIX/Linux）にインストールされたランタイム製品のログ設定を行います。

※ Design マネージャから起動した場合のみ選択が可能です。

※設定内容を有効にするには、対象製品がインストールされた端末に設定内容を転送する必要があります。ファイルの転送については、「インストール・エラーコード・制限事項 第1部 インストール 1-16-4 共通設定 2. ランタイム製品（UNIX/Linux）」をご覧ください。

[製品選択リスト]

製品名が書かれた一覧です。選択した製品のログ設定を行うことができます。

[ログ出力する]

ログ出力を有効にします。

[追記モードで出力する]

追記モードを有効にします。

無効である場合は、サービス開始時に既に存在するログファイルは削除されます。

※ [製品選択リスト] で MagicFolder 又は RemoteObject を選択した場合のみ設定できます。

[ログファイル名]/[サービス稼働ログファイル名]

指定したファイル名でログが出力されます。

使用可能な文字は、半角英数字および [\$#@_-] の記号です。

[アクセスログファイル名]

指定したファイル名で FormRemoteObject Client との通信ログが出力されます。

使用可能な文字は、半角英数字および [\$#@_-] の記号です。

※ [製品選択リスト] で FormRemoteObject を選択した場合のみ設定できます。

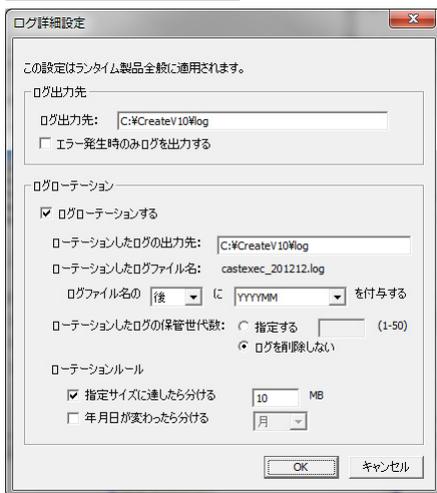
[ログ出力設定]

詳細設定ダイアログで設定されている内容が表示されます。

詳細設定を変更する場合は [詳細設定] ボタンをクリックして下さい。詳細設定ダイアログについては「2-3-2. 詳細設定ダイアログ」をご覧ください。

2-3-2. 詳細設定ダイアログ

図：詳細設定ダイアログ



[ログ出力先]

[ログ出力先]

指定したパスにログファイルが出力されます。絶対パスで指定して下さい。

使用可能な文字と記号は次の通りです。

Windows: 半角英数字、全角文字、[¥/, ; : * ? " < > |] 以外の記号

UNIX/Linux: 半角英数字、[¥/, ; : * ? " < > |] 以外の記号

[エラー発生時のみログを出力する]

エラー発生時のみログの出力を有効にします。

※メイン設定ダイアログの [製品選択リスト] で Cast、Collect、Print、PrintStage/Web のいずれかを選択している場合のみ設定できます。

[ログローテーション]

[ログローテーションする]

ログローテーションを有効にします。

[ローテーションしたログの出力先]

指定したパスに退避ログが保存されます。絶対パスで指定して下さい。

使用可能な文字と記号は次の通りです。

Windows: 半角英数字、全角文字、[¥/, ; : * ? " < > |] 以外の記号

UNIX/Linux: 半角英数字、[¥/, ; : * ? " < > |] 以外の記号

[ローテーションしたログファイル名]

左側の [位置] プルダウンで退避ログファイル名に使用する年月日文字列の位置を選択します。選択可能な値は、年、月、日です。

右側の [文字列] プルダウンで退避ログファイル名に使用する年月日文字列の種類を選択します。選択可能な値は YYYYMMDD、YYYY_MM_DD、YYMMDD、YY_MM_DD、YYYYMM、YYYY_MM、YYMM、YY_MM、YYYY、YY、です。

選択した内容とマシン日付を元に作成した退避ログファイル名がサンプルとして画面に表示されます。

図：退避ログファイル名のサンプル表示



[保管世代数]

退避ログファイルの保存数を制限する場合は、[指定する] ラジオボタンを選択して [保管世代数] テキストボックスに保管世代数を入力します。保管世代数には 1 以上 50 以下の値を入力してください。

[ログを削除しない] ラジオボタンを選択した場合は退避ログファイルの削除は行われません。

[ローテーションルール]

ローテーションを有効にしている場合は、以下のルールのうち少なくとも 1 つを有効にする必要があります。

なお、両方のルールを有効に設定している場合は、いずれかのルールに合致したときにローテーションが実施されます。

[指定サイズに達したら分ける]

ファイルサイズによるログのローテーションが有効になります。

[ファイルサイズ] テキストボックスにてファイルサイズの指定を行います。ファイルサイズには 1 以上 99 以下の整数値を入力してください。単位は「MB」です。

[年月日が変わったら分ける]
年月日単位によるログのローテーションが有効になります。
[年月日]プルダウンから年月日単位の指定を行います。指定可能な値は、年、月、日です。

2-4. ジョブ実行時のログ出力設定

ジョブ実行時にオプションを利用してログ出力の設定をします。設定できるのは、ジョブ ID とログファイル名の 2 つです。

2-4-1. ジョブ ID

ランタイム実行時のコマンドラインに [-Lid] オプションを追加することで利用できます。実行オプション文字列の後ろに使用したいジョブ ID を入力して下さい。

※使用可能な文字は半角英数字のみ、かつ 128 文字以内です。

使用方法) -Lid[ジョブ ID]
使用例) -Lidjob12345

<< 注意 >>

FormMagicFolder/FormRemoteObject では任意のランタイム実行ジョブ ID を指定できません。

2-4-2. ログファイル名

ランタイム実行時のコマンドラインに [-Lfn] オプションを追加することで利用できます。実行オプション文字列の後ろに出力先として指定したいログファイル名を入力して下さい。

使用方法) -Lfn[ログファイル名]
使用例) -Lfncastexec. log
 -LfnC:¥CreateV10¥log¥castexec. log

指定できるログファイル名にはファイル名のみもしくは絶対パスで指定することができます。ファイル名のみで指定したときは、ログ設定ダイアログで指定したログ出力先にファイルが出力されます。

絶対パスで指定したときは、指定したパスにファイルが出力されます。

<< 注意 >>

実行オプション文字列によりログファイル名を指定した場合は、ログ設定ダイアログで設定した値は無効となり、実行時の指定が有効となります。

絶対パスは 250 文字以内で指定して下さい。相対パスは絶対パスに変換した場合に 250 文字以内になるよう指定して下さい。

UNIX/Linux では日本語のログファイル名は使用できません。

3. 実行ログの確認

Create!Formのランタイム実行ログの内容の確認は、ログビューアから行うことができます。ログビューアについて次で説明します。

3-1. ログビューア概要

ログビューアでは、ランタイム単位での表示やログ種別単位での表示、処理時間単位での集計表示といった機能があります。

<< 注意 >>

ランタイム実行ログを出力するためには、事前に実行ログの設定を行う必要があります。
※実行ログの設定については「2. 実行ログの設定」をご覧ください。

3-2. 起動方法

ログビューアの起動方法としては以下の2通りの方法があります。

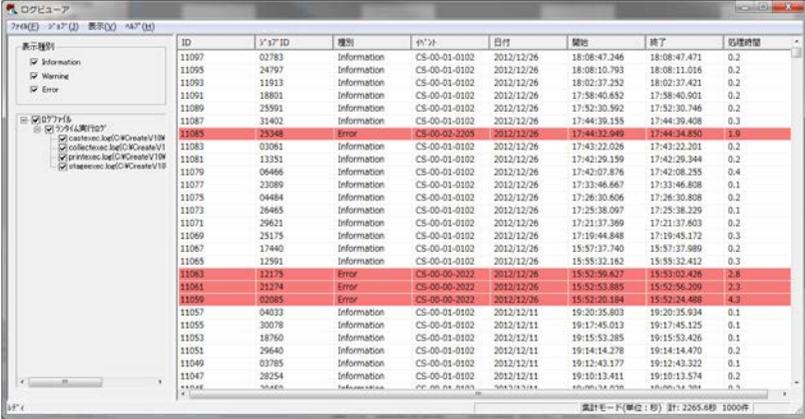
- ・ Design マネージャのツールメニュー [ツール] - [ログビューア] を選択
- ・ Design マネージャのツールボタン [ログビューア] を選択

※ログビューアの初回起動時は実行ログファイルの追加が行われていません。ログリストへ実行ログの内容を表示するには、初めにログファイルの追加を行う必要があります。ログファイルの追加については後述の「3-4. ログファイルの追加」をご覧ください。

3-3. 画面説明

3-3-1. メイン画面

図：ログビューア



ID	ジョブID	種別	ジョブ名	日付	開始	終了	処理時間
11007	02783	Information	CS-00-01-0102	2012/12/26	18:08:47.246	18:08:47.471	0.2
11095	24797	Information	CS-00-01-0102	2012/12/26	18:08:10.793	18:08:11.016	0.2
11093	11913	Information	CS-00-01-0102	2012/12/26	18:02:37.232	18:02:37.421	0.2
11091	18801	Information	CS-00-01-0102	2012/12/26	17:58:40.652	17:58:40.901	0.2
11089	25591	Information	CS-00-01-0102	2012/12/26	17:52:30.592	17:52:30.746	0.2
11087	31402	Information	CS-00-01-0102	2012/12/26	17:44:39.155	17:44:39.408	0.3
11085	25348	Error	CS-00-02-2209	2012/12/26	17:44:32.649	17:44:34.850	1.9
11083	03061	Information	CS-00-01-0102	2012/12/26	17:43:22.026	17:43:22.201	0.2
11081	13351	Information	CS-00-01-0102	2012/12/26	17:42:29.159	17:42:29.344	0.2
11079	06466	Information	CS-00-01-0102	2012/12/26	17:42:07.876	17:42:08.255	0.4
11077	23089	Information	CS-00-01-0102	2012/12/26	17:33:46.667	17:33:46.808	0.1
11075	04484	Information	CS-00-01-0102	2012/12/26	17:26:30.606	17:26:30.808	0.2
11073	26485	Information	CS-00-01-0102	2012/12/26	17:25:38.097	17:25:38.229	0.1
11071	29621	Information	CS-00-01-0102	2012/12/26	17:21:37.369	17:21:37.603	0.2
11069	25175	Information	CS-00-01-0102	2012/12/26	17:19:44.848	17:19:45.172	0.3
11067	17440	Information	CS-00-01-0102	2012/12/26	15:57:37.740	15:57:37.989	0.2
11065	12591	Information	CS-00-01-0102	2012/12/26	15:55:32.162	15:55:32.412	0.3
11063	12175	Error	CS-00-00-3022	2012/12/26	15:52:49.627	15:53:02.426	2.8
11061	21274	Error	CS-00-00-2022	2012/12/26	15:52:53.885	15:53:06.209	2.3
11059	60085	Error	CS-00-00-2022	2012/12/26	15:52:20.184	15:52:24.488	4.3
11057	40633	Information	CS-00-01-0102	2012/12/11	19:20:35.803	19:20:35.934	0.1
11055	30078	Information	CS-00-01-0102	2012/12/11	19:17:45.013	19:17:45.125	0.1
11053	18760	Information	CS-00-01-0102	2012/12/11	19:15:53.285	19:15:53.426	0.1
11051	26643	Information	CS-00-01-0102	2012/12/11	19:14:54.278	19:14:54.470	0.2
11049	01785	Information	CS-00-01-0102	2012/12/11	19:12:43.177	19:12:43.322	0.1
11047	28254	Information	CS-00-01-0102	2012/12/11	19:10:13.411	19:10:13.574	0.2

ツールメニュー

[ファイル]

[ログファイルの追加]

ランタイムから出力された実行ログファイルをログビューアへ追加します。
追加された実行ログファイルは、以降のログビューア起動時に自動的に読み込まれます。

[選択したログファイルをリストから削除]

現在選択されている実行ログファイルをログビューア上から削除します。
削除された実行ログファイルは、以降のログビューア起動時に自動的に読み込まれません。

※実行ログファイル自体は削除されません。

[エクスポート]

ログリスト上で表示されているログの各項目を指定した形式で出力します。

[終了]

ログビューアを終了します。

[ジョブ]

[表示件数]

ログリスト上で表示するログの表示件数を設定します。

※詳細については後述の「3-3-2. 表示件数設定画面」をご覧ください。

[表示項目]

ログリスト上で表示するログの表示項目を設定します。

※詳細については後述の「3-3-3. 表示項目設定画面」をご覧ください。

[集計モード]

ジョブの開始時間と終了時間を各ジョブごとに集計してログリストへ表示します。

[集計表示]

集計したジョブの処理時間の表示単位を設定します。

分、秒、ミリ秒のいずれかの設定から選択します。

※集計モードが有効時のみ設定可能となります。

[再実行]

ログリスト上で選択されている実行ログのジョブからランタイムを再実行します。

[資源ファイルアーカイブ]

実行ログで指定されている作業ディレクトリに含まれる資源ファイルとログファイルを圧縮したアーカイブファイルを出力します。

※詳細については後述の「3-3-4. アーカイブファイル選択画面」をご覧ください。

※実行ログで指定されている作業ディレクトリが存在しない場合は、作業ディレクトリの参照ダイアログが表示されます。

[表示]

[最新の情報に更新]

ログリストに表示されている実行ログの情報を更新します。

[ヘルプ]

[バージョン情報]

ログビューアのバージョン情報を表示します。

メイン画面

[表示種別]

ログリストへ表示する表示種別を設定します。ここで選択した表示種別のみログリストへ表示されます。

[ログファイル]

ログリストへ表示するログファイルを設定します。ここで選択した実行ログファイルのみログリストへ表示されます。

[ログリスト]

実行ログの内容が表示されます。なお、表示種別によって背景色が変化して表示されます。

Information : 白

Warning : 黄

Error : 赤

また、ログリスト上で実行ログを選択し、以下のいずれかの操作を行うことで、ログプロパティ画面が表示されます。

- ・ [Enter] キーを押下
- ・ ダブルクリック
- ・ 右クリックメニュー [プロパティ] をクリック

ログプロパティ画面では、実行ログの詳細な情報のほか、再実行と資源ファイルアーカイブを行うことができます。

※ログプロパティ画面については後述の「3-3-5. ログプロパティ画面」をご覧ください。

3-3-2. 表示件数設定画面

メイン画面のツールメニュー [ジョブ] - [表示件数] を選択してクリックすると起動します。

図：表示件数設定



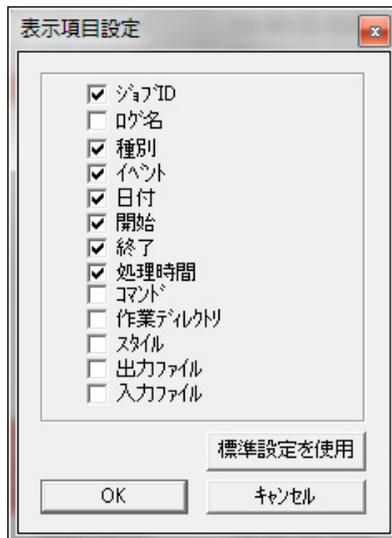
ログリストに表示するログの表示件数を 1 ～ 9999 の範囲で設定します。

※ログの表示件数を大きく設定すると、ログ表示完了までに時間がかかることがあります。

3-3-3. 表示項目設定画面

メイン画面のツールメニュー [ジョブ]-[表示項目] を選択してクリックすると起動します。

図：表示項目設定



ログリストに表示するログの表示項目を設定します。
ログリスト上に表示する項目を選択してください。

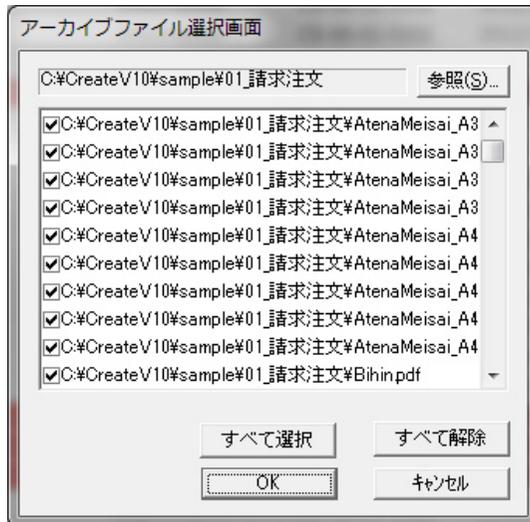
[標準設定を使用] ボタン

ログの表示項目として標準設定を使用します。

3-3-4. アーカイブファイル選択画面

メイン画面のツールメニュー [ジョブ]-[資源ファイルアーカイブ] を選択してクリックすると起動します。

図：アーカイブファイル選択画面



[参照] ボタン

初期値として、選択中の実行ログで指定されている作業ディレクトリが設定されています。アーカイブする作業ディレクトリの変更を行う場合は、ここで作業ディレクトリの指定を行ってください。

[アーカイブファイルリスト]

アーカイブ対象のファイルを指定します。初期値として、作業ディレクトリに含まれるすべての資源ファイルと、実行ログファイルがアーカイブの対象となっています。

[すべて選択] ボタン

アーカイブファイルリストに表示されているファイルをすべて選択します。

[すべて解除] ボタン

アーカイブファイルリストに表示されているファイルの選択をすべて解除します。

3-3-5. ログプロパティ画面

メイン画面のログリスト上で実行ログを選択し、ダブルクリックすると起動します。ログリスト上で選択した実行ログの情報を表示します。

図：ログプロパティ画面



[▲] ボタン

ログリストの選択位置を一つ上へ移動します。同時にログプロパティ画面の内容も更新されません。

[▼] ボタン

ログリストの選択位置を一つ下へ移動します。同時にログプロパティ画面の内容も更新されません。

[再実行] ボタン

表示されている実行ログのジョブからランタイムを再実行します。

[資源ファイルアーカイブ] ボタン

表示されている実行ログで指定されている作業ディレクトリの資源ファイルと実行ログファイルをアーカイブします。

※詳細については前述の「3-2-4. アーカイブファイル選択画面」をご覧ください。

※実行ログで指定されている作業ディレクトリが存在しない場合は、作業ディレクトリの参照ダイアログが表示されます。

[閉じる] ボタン

ログプロパティ画面を終了します。

3-4. ログファイルの追加

ログビューアで実行ログの内容を表示するには、ログファイルの追加を行う必要があります。

[ファイル]メニュー [ログファイルの追加] から実行ログファイルの追加を行ってください。各ランタイムの実行ログファイルはログ設定ダイアログ(※)で指定した [ログ出力先] にあります。

※ログ設定ダイアログについては「2-3. ログ設定ダイアログ」をご覧ください。